

富士市 岩松北児童クラブ 古代体験授業レポート

静岡県埋蔵文化財センター

平成30年7月26日(木)

7月26日(木)、富士市の岩松北児童クラブをお訪ねし、4年生から6年生の35名の皆さんと「土器の分類」「石器(黒曜石)の試し切り」「火起こし」の古代の人々の生活体験の授業を行いました。

最初は硬かった表情も、はじめて見る本物の土器や石器に驚き、さらに本物の土器片に触れながらの分類体験には興味津々でした。火起こし体験では、本当に火が起きると「わあー」と歓声が沸き起こり、2度も3度も挑戦するグループもありました。

本物に触れたこの体験学習がこれからの生活や学習に生かされるとともに、地域を愛する心を育ててくれることを期待しています。

土器分類体験



縄文土器、弥生土器、須恵器(すえき)の3つの時代についてはほとんど知識がありません。しかし、実際に本物の土器片を直接手にとって見ると、見た目や肌触りなどそれぞれの時代の特徴や違いを見つけて土器を分類に挑戦しました。

火起こし体験



石器(黒曜石)試し切り体験



石器(黒曜石)を使って、紙や野菜を切る体験をしました。とても、よく切れたことに驚きました。昔の人々は鋭く尖る石(自然のガラス黒曜石)を探し、長野県や伊豆諸島まで出かけて行って手に入れていたことを知って、さらに驚きました。



実際に挑戦してみると、火起こしは大変でした。最初は、なかなか火が付きませんでした。グループで力を合わせて、コツを覚えると、次々と火を起こすことができました。火口(ほぐち)に火種(ひだね)を移し、火にするまでには、煙が目にしみてつらかった。そんな、昔の人々の苦労や工夫もいろいろと感ずることができました。